

令和5年(2023年)の全数把握対象疾患

届出された全数把握対象疾患について、感染症サーベイランスシステム(NESID)より情報を収集・解析した。また、新型コロナウイルス感染症については、「奈良県_新型コロナウイルス感染症」(奈良県防災統括室 <https://www.pref.nara.jp/55168.htm>)より情報を収集・解析した。

令和5年までの全数把握対象疾患(新型コロナウイルス感染症を除く)の届出状況は、表1のようになっている。なお、現時点(令和6年8月時点)での速報値であり、後日変更されることがある。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核は209例の届出があり、2022年の167例から増加した。男性111例(10～19歳2例、20～29歳6例、30～39歳3例、40～49歳5例、50～59歳10例、60～69歳11例、70～79歳30例、80～89歳33例、90～99歳11例)、女性98例(0歳2例、20～29歳10例、30～39歳9例、40～49歳4例、50～59歳6例、60～69歳5例、70～79歳21例、80～89歳31例、90～99歳10例)で、70歳以上が全体の65%を占めていた。類型は、患者145例、無症状病原体保有者62例、感染症死亡者の死体2例であった。患者の病型は、肺結核が94例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性髄膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等)が41例、肺結核及びその他の結核が12例であった(別添1)。

3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症は30例の届出があり、2022年の27例から増加した。男性16例(0～9歳3例、10～19歳3例、20～29歳3例、30～39歳1例、40～49歳1例、50～59歳4例、70～79歳1例)、女性14例(0～9歳3例、30～39歳2例、40～49歳3例、50～59歳3例、60～69歳1例、80～89歳1例、90～99歳1例)であった。感染者の類型は、患者18例、無症状病原体保有者が12例で、溶血性尿毒症症候群(HUS)は0例であった。血清型・検出病原体は、O26が6例(VT1が6例)、O63が1例(VT2が1例)、O103が1例(VT1が1例)、O115が1例(VT1が1例)、O157が18例(VT1&VT2が4例、VT2が14例)、O186が1例(VT2が1例)、O型判別不能が2例(VT2が2例)であった。推定感染経路は、経口感染が14例、接触感染が6例、不明が10例であった。経口感染が推定されている事例には、レバーの生食といった生肉を喫食した記載のある事例が含まれていた。

4. 四類感染症

エムポックス1例、つつが虫病2例、デング熱2例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症25例の届出があった。

エムポックスは5月に届出があり、水疱穿刺液から病原体遺伝子が検出された。40代の男性で、発熱、発疹、リンパ節腫脹、咽頭痛を呈していた。推定感染経路は性的接触(同性間)であり、奈良県におけるエムポックスの検出は本事例が1例目であった。

つつが虫病は、7月に1例、12月に1例の届出があった。1例は、50代女性で、山林でマダニ

に刺されたと推定され、発熱、髄膜炎を呈しており、推定感染地域は、県内とされている。もう1例は、80代男性で、ダニと推定される刺し口における痂皮から病原体遺伝子が検出された。発熱、発疹を呈しており、推定感染地域は県内とされている。

デング熱は、4月に1例、7月に1例の届出があった。1例は、10代女性で、2日以上続く発熱、頭痛、全身の筋肉痛、骨関節痛、発疹、血小板減少、白血球減少を呈していた。もう1例は、30代女性で、2日以上続く発熱、発疹、血小板減少、白血球減少、ショック症状を呈していた。2例とも、海外渡航中に蚊に刺されたことが感染経路と推定されている。

日本紅斑熱は、7月に2例、8月に1例の届出があった。1例は、80代女性で、ペア血清での抗体陽転により届出がなされた。虫による刺し口が確認され、発疹、肝機能異常を呈しており、推定感染地域は県内とされている。1例は、50代男性で、ダニと推定される刺し口周辺の皮膚組織から病原体遺伝子が検出された。発熱、頭痛、発疹、肝機能異常、両下肢筋肉痛を呈しており、推定感染地域は県外とされている。もう1例は、20代女性で、虫による刺し口における痂皮から病原体遺伝子が検出された。発熱、頭痛、発疹、肝機能異常を呈しており、推定感染地域は県外とされている。

レジオネラ症は、25例の届出があり、2022年の28例から減少した。男性21例(30～39歳1例、50～59歳1例、60～69歳7例、70～79歳5例、80～89歳5例、90～99歳2例)、女性4例(20～29歳1例、70～79歳2例、90～99歳1例)であった。病型は、肺炎型23例、ポンティアック熱型2例であった。推定感染経路は水系感染が5例、塵埃感染が3例、不明が17例であった。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢5例、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)4例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症33例、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症13例、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)5例、侵襲性インフルエンザ菌感染症10例、侵襲性肺炎球菌感染症35例、水痘(入院例に限る。)11例、梅毒94例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳15例の届出があった。

アメーバ赤痢は5例の届出があり、すべて男性(60～69歳4例、70～79歳1例)であった。病型は、腸管アメーバ症4例、腸管外アメーバ症1例であった。推定感染経路は経口感染2例、不明が3例であり、推定感染地域は、県内1例、県外1例、不明3例であった。

ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)は4例の届出があり、男性2例(0～9歳1例、50～59歳1例)、女性2例(20～29歳1例、50～59歳1例)であった。病型は、B型が2例、その他が2例であった。推定感染経路は性的接触(異性間)であり、推定感染地域は、県内1例、県外1例、不明2例であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は33例の届出があり、男性22例(40～49歳1例、50～59歳2例、60～69歳4例、70～79歳7例、80～89歳6例、90～99歳2例)、女性11例(70～79歳6例、80～89歳2例、90～99歳3例)であった。年齢は60歳以上が多く、全体の約9割を占めた。病原体検出検体は、血液10例、腹水1例、喀痰5例、膿1例、尿13例、その他7

例であった(重複を含む)。分離された菌種は、*Klebsiella aerogenes* 12 株、*Klebsiella pneumoniae* 6 株、*Enterobacter cloacae complex* 4 株、*Escherichia coli* 4 株、*Enterobacter cloacae* 3 株、*Klebsiella oxytoca* 2 株、*Morganella morganii* 1 株、*Serratia marcescens* 1 株であった。推定感染経路は、以前からの保菌が 18 例、尿路カテーテル 4 例、人工呼吸器 1 例、その他医療器具関連 1 例、院内感染 2 例、手術部位(手術手技)2 例、その他 2 例、不明 3 例であった。

急性脳炎は 4 例の届出があり、男性 1 例(10～19 歳 1 例)、女性 3 例(0～9 歳 2 例、30～39 歳 1 例)であった。病型は、インフルエンザウイルスが 2 例、その他が 1 例、病原体不明が 1 例であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 13 例の届出があり、男性 7 例(70～79 歳 1 例、80～89 歳 4 例、90～99 歳 2 例)、女性 6 例(40～49 歳 1 例、50～59 歳 2 例、70～79 歳 2 例、80～89 歳 1 例)であった。血清群は A 群 2 例、B 群 5 例、G 群 6 例であり、推定感染経路は創傷感染 8 例、その他 2 例、不明 3 例であった。

後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)は男性 5 例(10 歳～19 歳 1 例、20～29 歳 1 例、30～39 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 1 例)の届出があった。病型は、AIDS 4 例、無症候性キャリア 1 例であり、推定感染経路はすべて性的接触(同性間)であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は 10 例の届出があり、男性 6 例(0 歳～9 歳 1 例、40 歳～49 歳 1 例、80～89 歳 4 例)、女性 4 例(30～39 歳 1 例、60～69 歳 1 例、80～89 歳 1 例、90～99 歳 1 例)であった。ワクチン接種歴は、接種歴なし 2 例、接種歴不明 8 例であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は 35 例の届出があり、男性 20 例(30～39 歳 1 例、40～49 歳 1 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 12 例、80～89 歳 4 例)、女性 15 例(0～9 歳 3 例、40～49 歳 1 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 4 例、80～89 歳 4 例、90～99 歳 1 例)であった。ワクチン接種歴は、接種歴あり 3 例、接種歴無し 9 例、接種歴不明 23 例であり、接種歴あり 3 例は、9 歳以下でいずれも 4 回接種していた(別添 2)。

水痘(入院例に限る)は 11 例の届出があり、男性 8 例(20～29 歳 1 例、30～39 歳 2 例、40～49 歳 1 例、60～69 歳 3 例、70～79 歳 1 例)、女性 3 例(20～29 歳 1 例、70～79 歳 2 例)であった。病型はすべて検査診断例であり、ワクチン接種歴は、接種歴無し 5 例、接種歴不明 6 例であった。推定感染経路は、接触感染 2 例、飛沫・飛沫核感染 1 例、不明 8 例であった。

梅毒は 94 例の届出があり、2022 年の 75 例より増加した。男性 69 例(10～19 歳 1 例、20～29 歳 15 例、30～39 歳 16 例、40～49 歳 15 例、50～59 歳 15 例、60～69 歳 4 例、70～79 歳 1 例、80～89 歳 2 例)、女性 25 例(10～19 歳 3 例、20～29 歳 13 例、30～39 歳 3 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 1 例、80～89 歳 3 例)であった。患者の病型は、早期顕症梅毒 70 例(I 期:男性 30 例、女性 5 例、II 期:男性 22 例、女性 13 例)、晩期顕症梅毒 2 例(男性 2 例)、無症候(無症状病原体保有者)22 例(男性 15 例、女性 7 例)であり、早期顕症梅毒のうち 50 代男性 1 例、無症候(無症状病原体保有者)のうち 40 代男性 2 例及び 50 代男性 2 例は、HIV 感染症の合併があった。また、早期顕症梅毒のうち女性 2 例及び無症候のうち女性 1 例は、妊娠中であった。感染経路は性的接触が 82 例(同性間 11 例、異性間 59 例、不明 12 例)、不明 12 例であり、性的接触(同性間)は男性 10 例、女性 1 例であった。また、性風俗産業の従事歴(直近 6 か

月以内)があった事例は6例あり、性風俗産業の利用歴(直近6か月以内)があった事例は21例あった。推定感染地域は、奈良県が39例、奈良県以外(都道府県不明を含む)が33例、不明は22例であった(別添3)。

播種性クリプトコックス症は90代女性1例の届出があり、感染経路は不明であった。

破傷風は80代男性1例の届出があった。土手から転落して頭部を挫創したことによる創傷感染と推定され、受傷後に開口障害及び嚥下障害の症状が出現した。ワクチン接種歴はなかった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は80代女性1例の届出があった。病原体検出検体は尿で、菌種は *Enterococcus faecium* であった。感染経路は不明であった。

百日咳は15例の届出があり、男性7例(0歳～9歳4例、20～29歳1例、30～39歳1例、70～79歳1例)、女性8例(0歳～9歳3例、10歳～19歳1例、30～39歳1例、40～49歳1例、50～59歳2例)であった。推定感染経路は、家庭内感染が5例、不明が10例であった。ワクチン接種歴は、接種歴あり7例(4回接種4例、3回接種3例)、接種歴なし1例、不明7例であった。

6. 新型インフルエンザ等

令和5年1月1日から令和5年5月7日までの本県における新型コロナウイルス感染症は48471例あった。この期間は第8波と呼ばれる、令和4年10月からの流行の波の後半にあたる。新規感染者報告数は、令和4年11月中旬の急増から高い水準で推移しており、令和5年1月上旬にピークを迎えた。その後、令和5年2月以降は低水準で推移し、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症は第5類感染症に引き下げられ、新規感染者報告数の全数把握は終了した。

本県において第8波では、BA.5系統が多く検出され、オミクロン系統の変異株による感染が継続していたと考えられる。令和5年3月には、BM.1.1.1系統とBJ.1系統の組み換え体であるXBB株の検出割合の増加が見られたが、令和5年5月時点では新規感染者報告数の急増は見られなかった。

結核

(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移

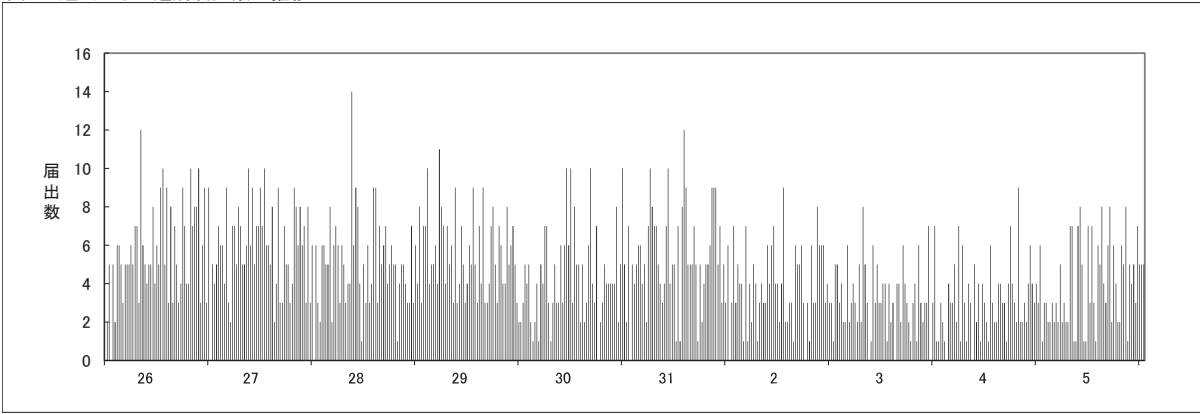


図-2 過去からの届出数の推移

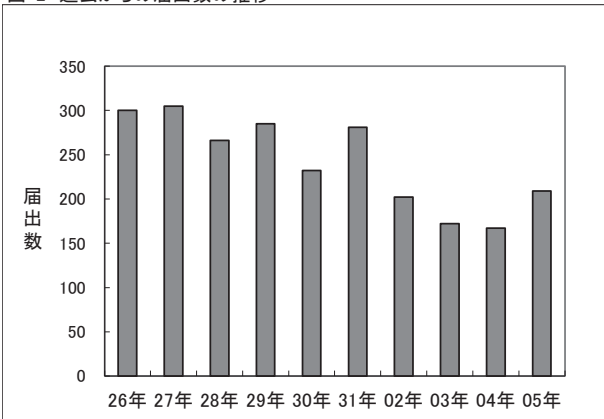


図-5 週別届出数

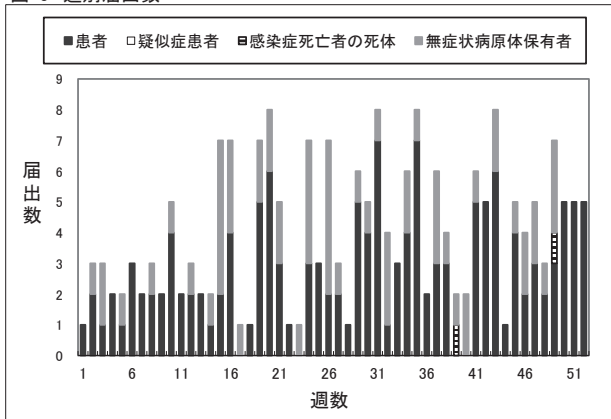


図-3 年齢別届出数

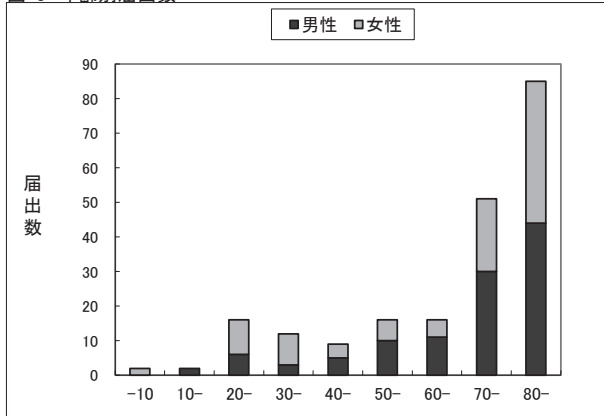


図-6 病型別

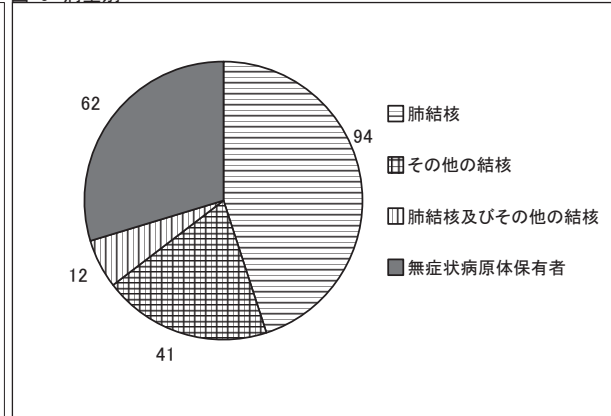
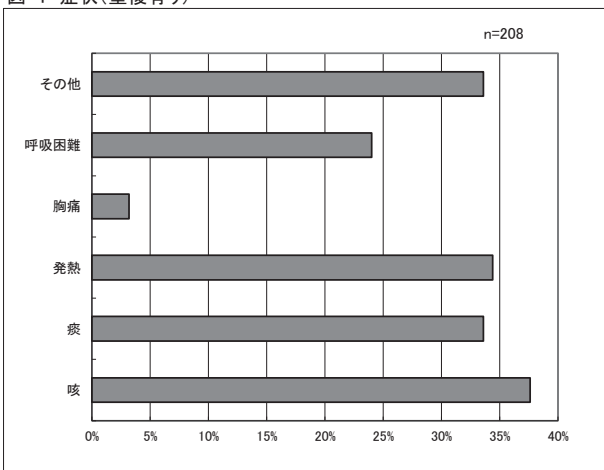


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:106例
 県外:93例(都道府県不明を含む)
 海外:10例

侵襲性肺炎球菌感染症

(別添2)

図1 過去からの週別届出数の推移

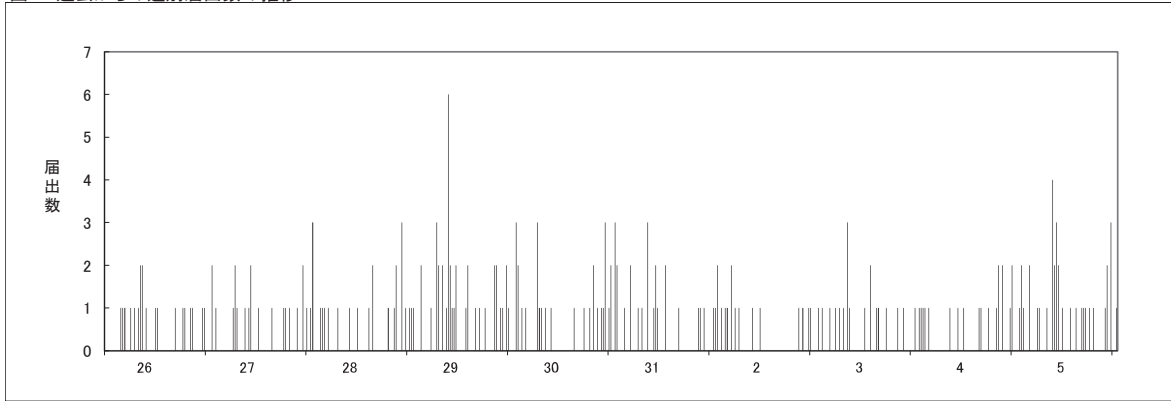


図2 過去からの届出数の推移

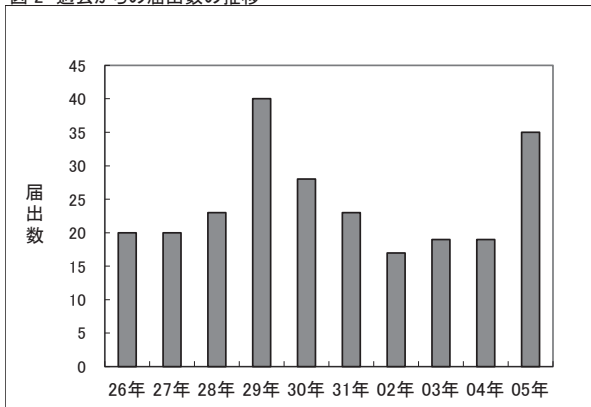


図5 週別届出数

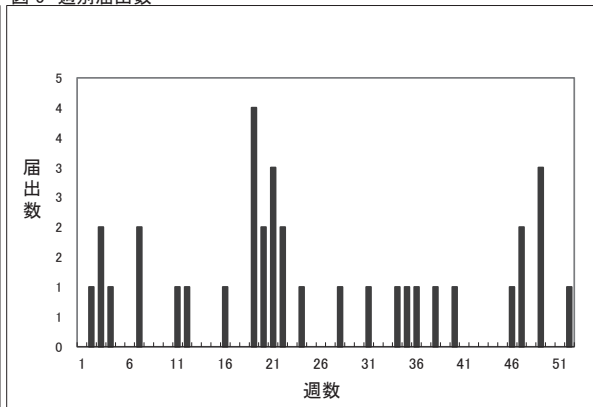


図3 年齢別届出数

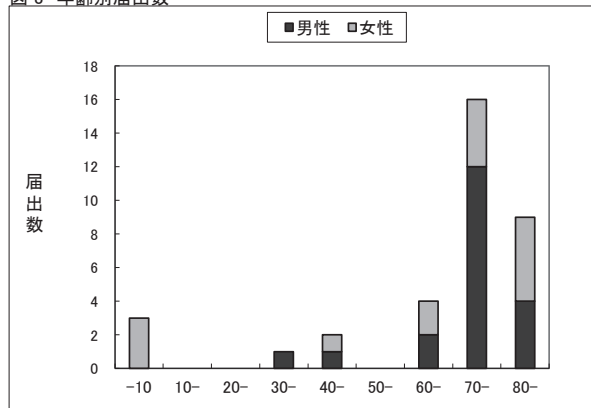


図6 ワクチン接種歴

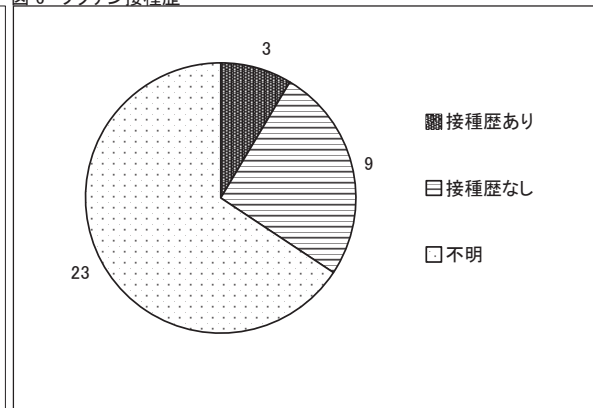
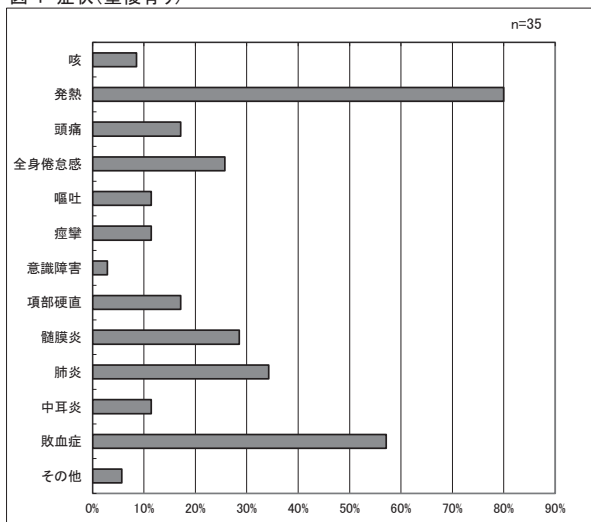


図4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:29例
 県外:6例(都道府県不明を含む)
 海外:0例

図1 過去からの週別届出数の推移

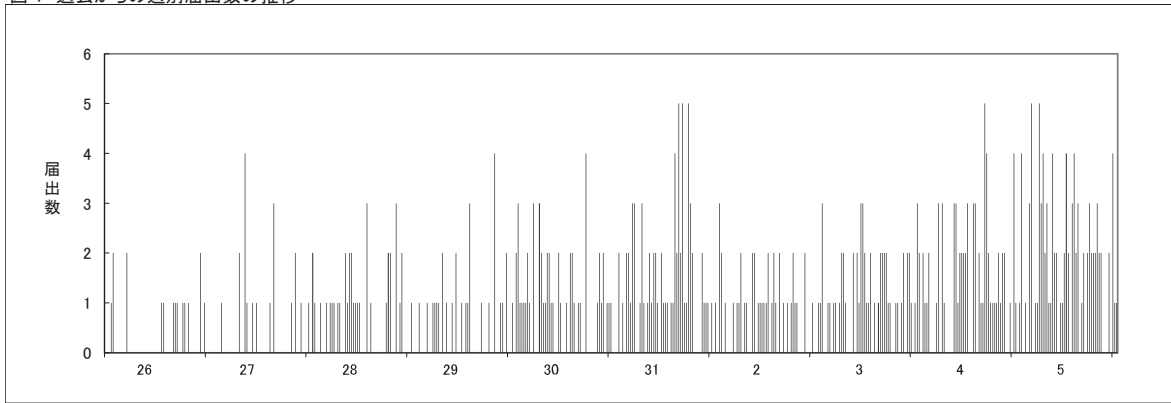


図2 過去からの届出数の推移

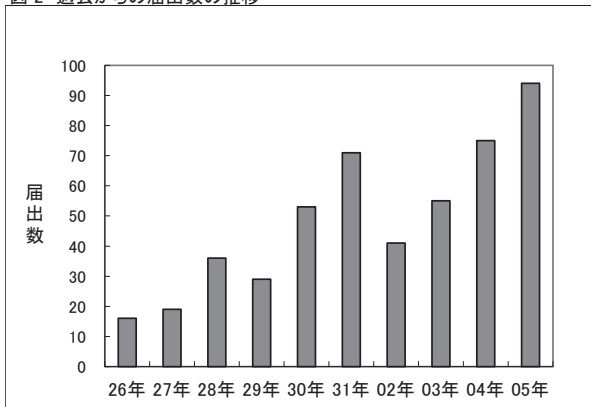


図5 週別届出数

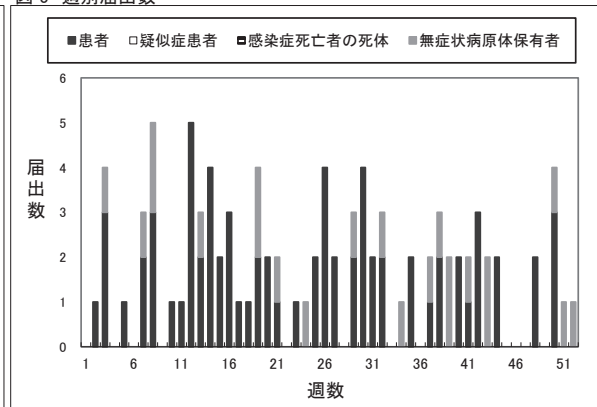


図3 年齢別届出数

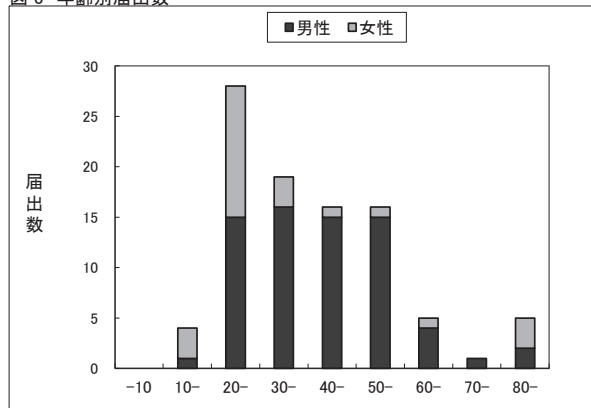


図6 年齢群別の届出数の推移

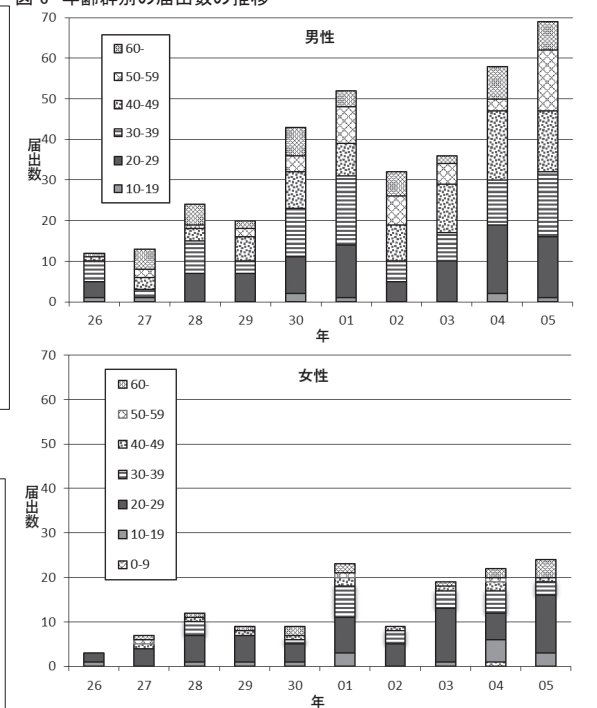
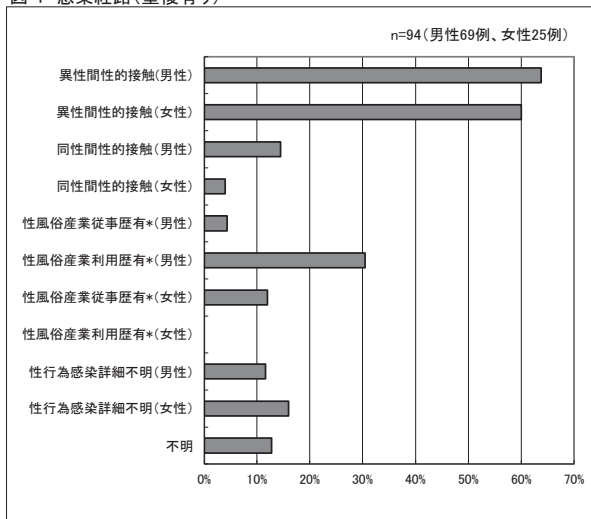


図4 感染経路(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内: 39例
 県外: 55例(都道府県不明を含む)
 海外: 0例